

## 評価問題例

### 【評価問題】

- 教科書の『古典の心に近づく』を読んで、以下のことを調べなさい。
  - ① 対義語は使われていますか。
  - ② 類義語は使われていますか。
  - ③ 多義語は使われていますか。
- 調べてみて感じたことを書きなさい。

## 評価問題のポイント

### 【評価問題】

対義語・類義語・多義語の知識を単なる暗記事項にしないため、実際の文章について調べ、その時の感想を書かせる。

- 教科書の『古典の心に近づく』を読んで、以下のことを調べなさい。

対義語については、形容詞どうしの組合せを中心に数組ある。「読める」と「読まない」のような肯定・否定や、「自然に読める」と「難しい朗読のしかた」のような文脈上対立しているように見える組合せを対義語に含めている場合は、その妥当性を生徒自身に考えさせ、2の感想を書くときの動機付けとしたい。

類義語の典型的な例はない。文中の気になった語の類義語を調べ、差し替えて文意が通らなかつたり、変わってしまったたりしないか、考えさせる。また「着心地」と「風合い」など文脈上響き合う語についても考えさせたい。

多義語は、文中で二つ以上の使い方をしているものは「かぎ」や「～を通して」などごく僅かである。多義語を効果的に活用している文章を学習する機会があれば、改めて考えさせたい。
- 調べてみて感じたことを書きなさい。

対義語・類義語・多義語が実際の文章の中でどのように使われているか、気付いたことを書かせたい。気づきを文字にすることで、以後の授業の際にも対義語・類義語・多義語に注目するとともに、「読むこと」において批評文などを書かせる際、自分の意見の根拠として使うきっかけとなるように指導する。